

層雲峡ビジターセンター



〔エゾシマリス・緑岳〕

大雪山の小さなアイドル・エゾシマリス

その愛くるしい姿と仕草で登山者に人気のエゾシマリス。日本では北海道だけに生息しており、海岸付近から高山まで幅広く分布しています。大雪山の高山帯でもたくさん姿を見かけますが、雪に閉ざされ、寒さの厳しい冬になっても山を下りることなく、一年を大雪山で過ごします。では、冬はどうしているのかというと、エゾリスと違って、エゾシマリスは一年の半分以上を冬眠して過ごします。冬眠といっても完全に眠ってしまうわけではなく、時折目を覚ましては食事やトイレを済ませ、冬を越します。その冬眠準備のため、秋になると寝床になる巣材と越冬用の食料集めに大忙し！木の実で頬袋をパンパンにふくらませ、そのうえ巣材にする枯れ葉を口からはみ出すほど詰めて駆け回るシマリスの姿は本当に“可愛い”の一言です。

10月、大雪山では短い秋が終わり、地下の巣穴で約8ヶ月過ごすことになる長い冬が始まります。

*高山帯で秋に見られるたくさんの実～大雪山に生きる動物たちの貴重な食料となります。上の写真の実はガンコウランです。



ハイマツ



ウラシマツツジ



コケモモ



ヒメクロマメノキ



ガンコウラン



ウラジロナナカマド

もっと知りたい！層雲峡

～当センターのスタッフが、皆さんに知ってほしいことや
あまり知られていない層雲峡のあれこれをご紹介します～

荒井初一氏之像

ことし三月に亡くなった山岳史家・清水敏一さんの追悼講演が、八月五日に東川町のせんとぴゅあⅠで行われ、清水さんの業績についてお話しました。その場で、清水さんが掘り起こした人たちのひとりとして荒井初一の名を知っているかを、聴衆のみなさんに尋ねたところ、手を挙げたのは三名ほどでした。少ないな、とは思いましたが、清水さんが以前著書に書かれていた、以下のお話から、なるほどなと納得した次第です。

かつて荒井初一の像を求めて層雲峡を訪ねたことがあった。温泉街周辺を歩いたが分からないので、バスセンターの案内所に立ち寄って尋ねてみた。

<荒井初一の銅像はどこにありますか？>

<サァー……>

案内嬢にはこれまで聞いたこともないらしく、何がなんだかさっぱり分からない様子で、そばの女性に助け舟を求めた。だが彼女もまた同じく怪訝そうな表情をするのみである。そして知っていそうな男性を探してきた。

<その像ならそこにありますよ>

<そこってどこですか？>

<そこですよ>

と指を差しながら像の前まで案内してくれた。ナァーンダ、わずか二三十メートル先の木立の斜面、バスセンターを見おろすように建っているではないか。これに気づかなかった私も迂闊であった。

清水敏一著『知られざる大雪山の画家・村田丹下』187 ページ



【荒井初一氏の像】



【層雲峡観光案内所周辺】

荒井初一の業績については、本書のほか『大雪山の父・小泉秀雄』や『大町桂月の大雪山』にも詳しく書かれているので、興味のある人はそちらを読んでいただきたいのですが、層雲峡にとっては「恩人」と呼んでも差し支えない人物であることは確かです。

1922年の大雨で流失した塩谷温泉の権利を買い取り、現在の層雲閣（層雲閣 MOUNTAIN RESORT 1923）の礎をつくり、資材を投じて双雲別から層雲峡へ通じる道路を開削した努力は、翌年の北海道山岳会による黒岳登山道の開削と黒岳石室の建設につながり、のちの層雲峡の発展におおきく寄与しました。

ことは、1923年の黒岳登山道の開削と黒岳石室の建設からちょうど百年目の節目の年に当たります。そんなメモリアルイヤーに「層雲峡の恩人」の像を訪ねてみるのは、温故知新の旅として趣深いものがあります。（佐久間）

今年の大雪山の紅葉(9月21日・銀泉台)

9月上旬もずっと気温の高い日が続いて遅れていた紅葉も9/20夜からの冷え込みでようやくスイッチが入りました。



『奇跡のイルミネート6』

層雲峡温泉 紅葉谷でライトアップ
イベント開催中です！

※10/15(日)まで毎晩開催しています。

(18:00～21:00 最終入場 20:30)

層雲峡ビジターセンター

電話 01658-9-4400

ウェブサイト <http://sounkyovc.net>

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡